

2024 年度前期
「授業改善のための学生アンケート」結果報告書

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

目 次

1. 2024 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要	
① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設問の内容	2
⑤ 実施科目数	3
2. 2024 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果	
① 学部	4
② 大学院	9
3. 2024 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて	
① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	14
② FD・SD 推進委員会からのメッセージ	17
4. 2024 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業	
① 顕彰授業	18
② 顕彰授業における工夫	19

1. 2024 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実施期間：2024年7月2日（火）～7月29日（月）

実施対象：人間総合学部専門科目、宗教学科目、共通科目、学部共通科目、
司書課程科目、司書教諭課程科目、大学院（児・発）専門科目
※対象外科目でも教員の希望により実施可

調査方式：CampusSquare（Web） 自由記述欄あり（p.3 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約 10 分

③ 実施方法

- 1) 授業終了の10分前を目安に、履修学生にアンケート回答時間を設ける。回答は原則として授業時間内に行う。
- 2) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 3) 回答が完了しない学生が生じた場合は、実施期間中の任意の時間に、回答を行うように指示する。

④ 設問の内容

設問と回答選択肢は以下の通り。

- Q1 (大学院科目対象外) あなたは授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
I. 週2時間以上 II. 週1~2時間 III. 週30分~1時間 IV. 週0分~30分 V. 全くしていない
- Q2 この授業の進度は適切でしたか。
I. 速すぎる II. やや速い III. ちょうどよい IV. やや遅い V. 遅すぎる
- Q3 この授業の難易度は適切でしたか。
I. 難しすぎる II. やや難しい III. ちょうどよい IV. やや易しい V. 易しすぎる
- Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。
I. 多すぎる II. やや多い III. ちょうどよい IV. やや少ない V. 少なすぎる
- Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない

- Q12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q17 この授業を履修したことに満足している。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q18 この授業について、良かった点を、自由に記述してください。（自由記述）
- Q19 この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。（自由記述）
- Q20 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。（自由記述）
- Q21 （教員より指示があった場合のみ回答） ※教員個別設定質問 （自由記述）
- Q22 この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だ。
Ⅰ. はい Ⅱ. いいえ
- Q23 （Q22で「いいえ」と答えた人のみ回答） 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。（自由記述）

⑤ 実施科目数

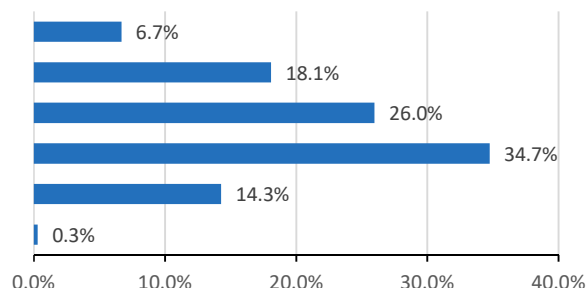
244 科目（学部：228、大学院：16）

2. 2024年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

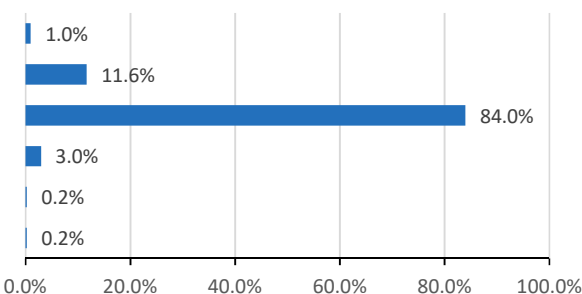
Q1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	209	6.7%
2	週1～2時間	567	18.1%
3	週30分～1時間	814	26.0%
4	週0分～30分	1,089	34.7%
5	全くしていない	447	14.3%
6	非該当	9	0.3%
	合計	3,135	



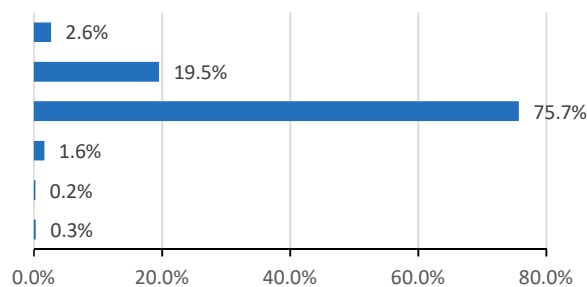
Q2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	30	1.0%
2	やや速い	365	11.6%
3	ちょうどよい	2,633	84.0%
4	やや遅い	93	3.0%
5	遅すぎる	7	0.2%
6	非該当	7	0.2%
	合計	3,135	



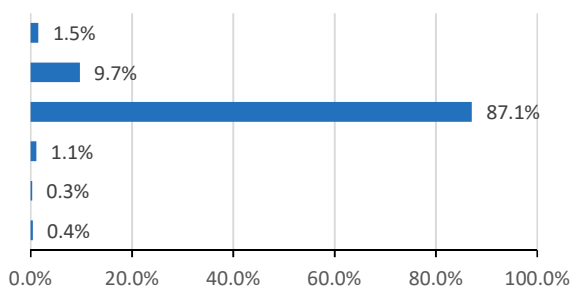
Q3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	83	2.6%
2	やや難しい	612	19.5%
3	ちょうどよい	2,374	75.7%
4	やや易しい	50	1.6%
5	易しすぎる	7	0.2%
6	非該当	9	0.3%
	合計	3,135	



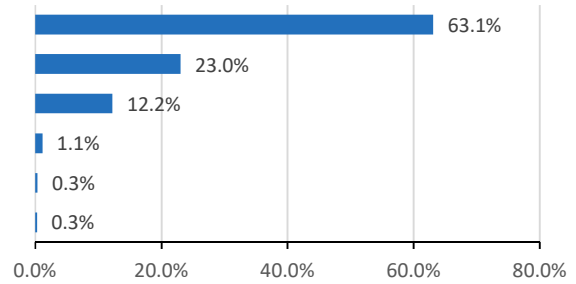
Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	47	1.5%
2	やや多い	304	9.7%
3	ちょうどよい	2,730	87.1%
4	やや少ない	34	1.1%
5	少なすぎる	8	0.3%
6	非該当	12	0.4%
	合計	3,135	



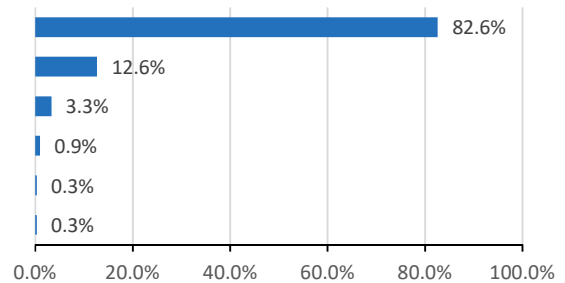
Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,978	63.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	722	23.0%
3	どちらとも言えない	382	12.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	35	1.1%
5	あてはまらない	10	0.3%
6	非該当	8	0.3%
	合計	3,135	



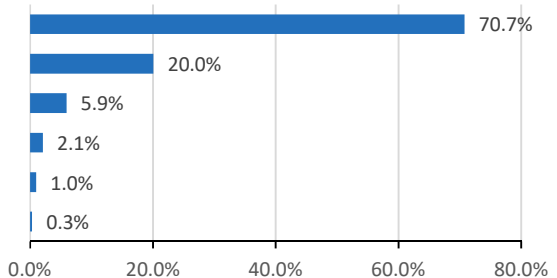
Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,589	82.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	396	12.6%
3	どちらとも言えない	103	3.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	29	0.9%
5	あてはまらない	9	0.3%
6	非該当	9	0.3%
	合計	3,135	



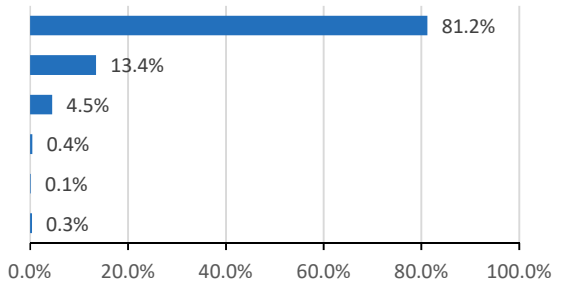
Q7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,218	70.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	628	20.0%
3	どちらとも言えない	185	5.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	65	2.1%
5	あてはまらない	30	1.0%
6	非該当	9	0.3%
	合計	3,135	



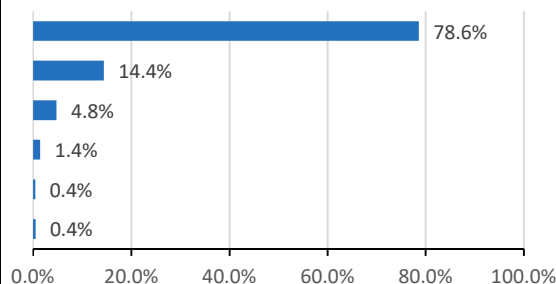
Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,546	81.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	421	13.4%
3	どちらとも言えない	141	4.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	14	0.4%
5	あてはまらない	3	0.1%
6	非該当	10	0.3%
	合計	3,135	



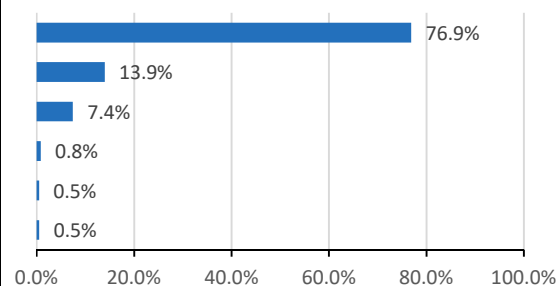
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,464	78.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	451	14.4%
3	どちらとも言えない	149	4.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	44	1.4%
5	あてはまらない	13	0.4%
6	非該当	14	0.4%
	合計	3,135	



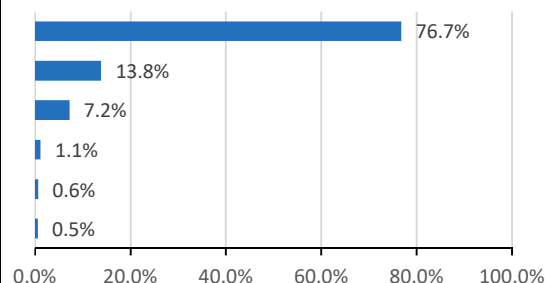
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,410	76.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	437	13.9%
3	どちらとも言えない	232	7.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	25	0.8%
5	あてはまらない	15	0.5%
6	非該当	16	0.5%
	合計	3,135	



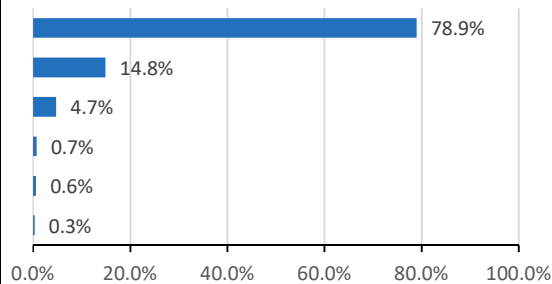
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,406	76.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	433	13.8%
3	どちらとも言えない	225	7.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	35	1.1%
5	あてはまらない	19	0.6%
6	非該当	17	0.5%
	合計	3,135	



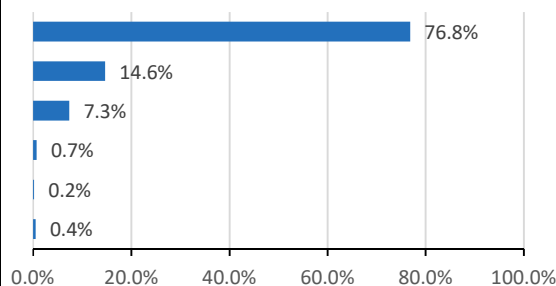
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,475	78.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	465	14.8%
3	どちらとも言えない	148	4.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	21	0.7%
5	あてはまらない	18	0.6%
6	非該当	8	0.3%
	合計	3,135	



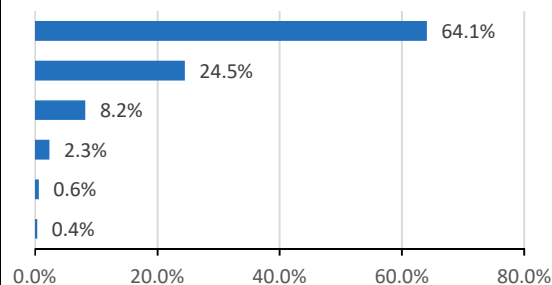
Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,408	76.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	458	14.6%
3	どちらとも言えない	229	7.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	21	0.7%
5	あてはまらない	5	0.2%
6	非該当	14	0.4%
	合計	3,135	



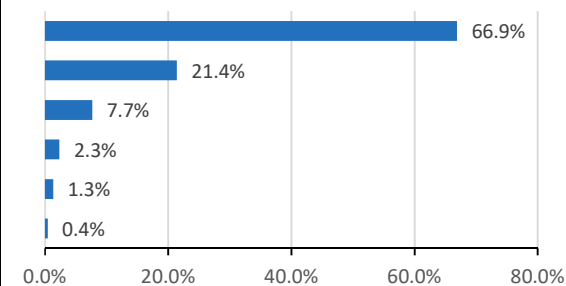
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,008	64.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	767	24.5%
3	どちらとも言えない	257	8.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	73	2.3%
5	あてはまらない	19	0.6%
6	非該当	11	0.4%
	合計	3,135	



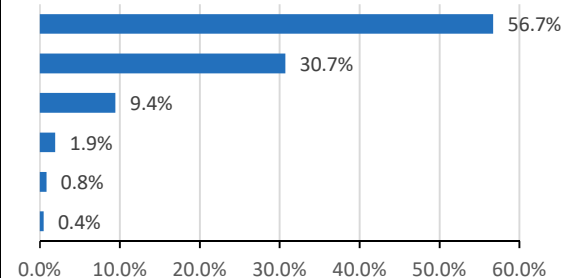
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,097	66.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	671	21.4%
3	どちらとも言えない	240	7.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	73	2.3%
5	あてはまらない	41	1.3%
6	非該当	13	0.4%
	合計	3,135	



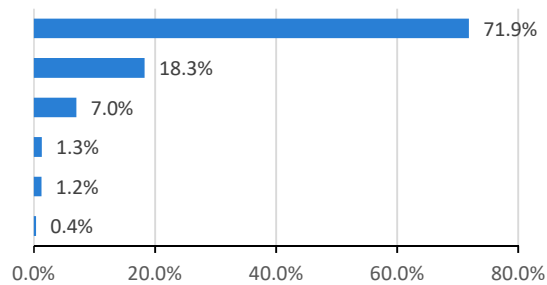
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,778	56.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	962	30.7%
3	どちらとも言えない	296	9.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	60	1.9%
5	あてはまらない	25	0.8%
6	非該当	14	0.4%
	合計	3,135	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,253	71.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	573	18.3%
3	どちらとも言えない	219	7.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	41	1.3%
5	あてはまらない	38	1.2%
6	非該当	11	0.4%
	合計	3,135	



2. 2024年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

②大学院

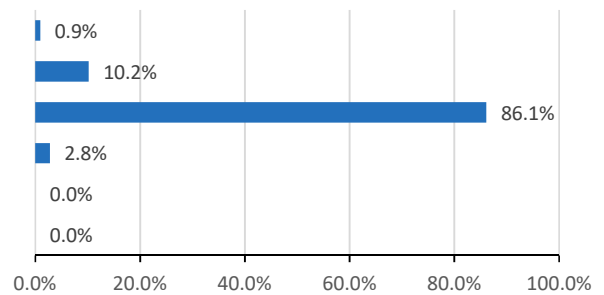
Q1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	0	
2	週1~2時間	0	
3	週30分~1時間	0	
4	週0分~30分	0	
5	全くしていない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

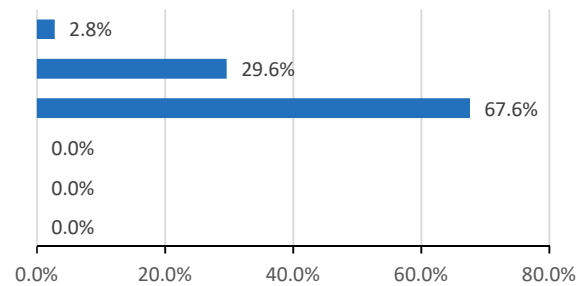
Q2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	1	0.9%
2	やや速い	11	10.2%
3	ちょうどよい	93	86.1%
4	やや遅い	3	2.8%
5	遅すぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



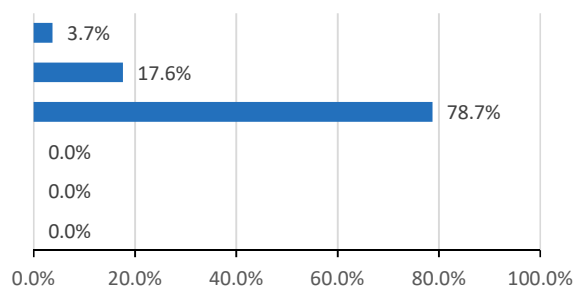
Q3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	3	2.8%
2	やや難しい	32	29.6%
3	ちょうどよい	73	67.6%
4	やや易しい	0	0.0%
5	易しすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



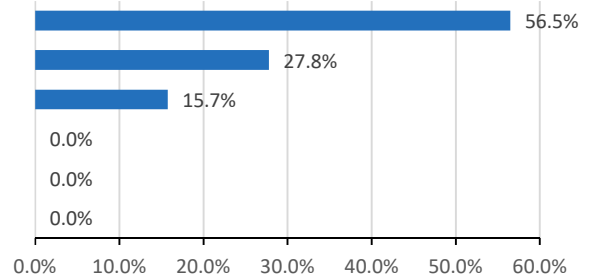
Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	4	3.7%
2	やや多い	19	17.6%
3	ちょうどよい	85	78.7%
4	やや少ない	0	0.0%
5	少なすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



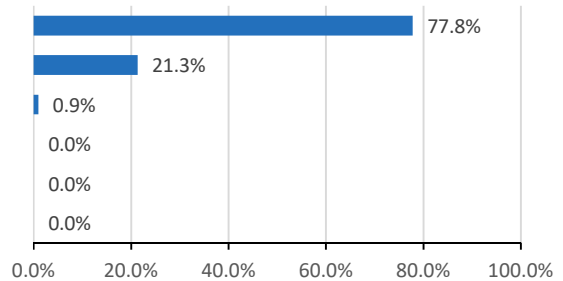
Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	61	56.5%
2	どちらかと言えばあてはまる	30	27.8%
3	どちらとも言えない	17	15.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



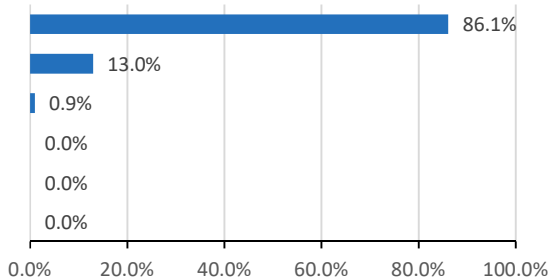
Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	84	77.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	23	21.3%
3	どちらとも言えない	1	0.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



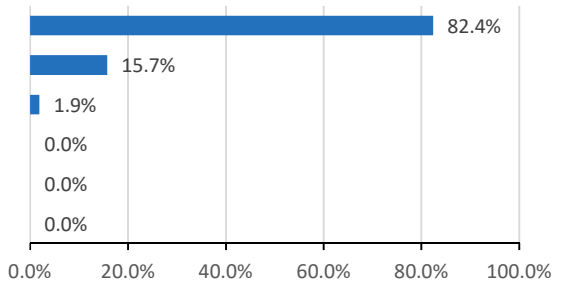
Q7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	93	86.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	14	13.0%
3	どちらとも言えない	1	0.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



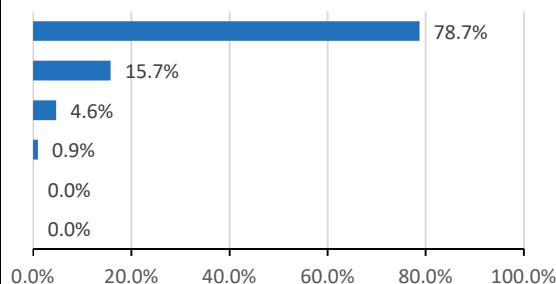
Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	89	82.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	17	15.7%
3	どちらとも言えない	2	1.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



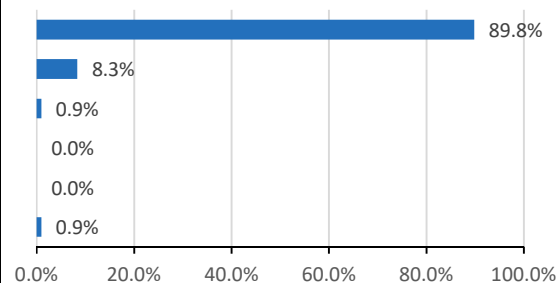
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	85	78.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	17	15.7%
3	どちらとも言えない	5	4.6%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	0.9%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



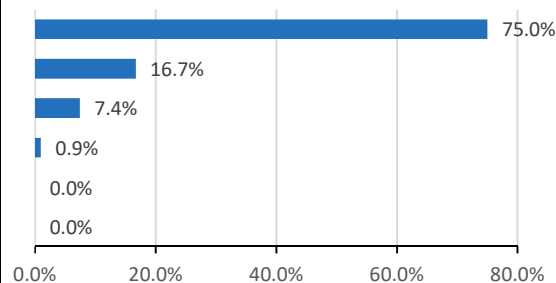
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	97	89.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	9	8.3%
3	どちらとも言えない	1	0.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	1	0.9%
	合計	108	



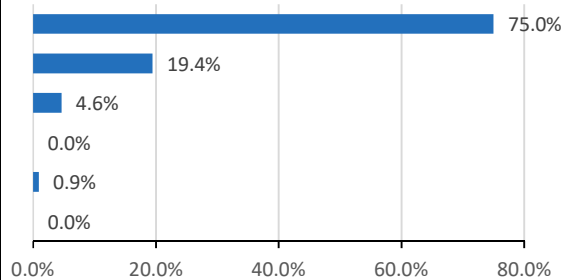
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	81	75.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	18	16.7%
3	どちらとも言えない	8	7.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	0.9%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



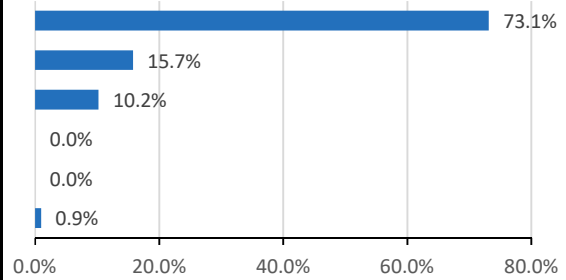
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	81	75.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	21	19.4%
3	どちらとも言えない	5	4.6%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	1	0.9%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



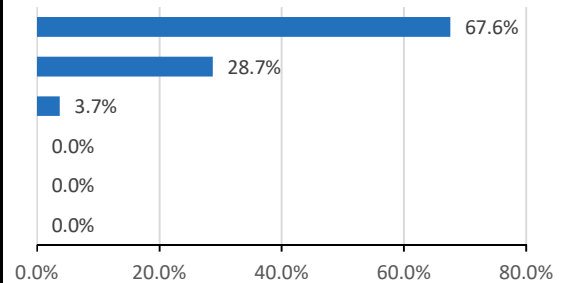
Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	79	73.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	17	15.7%
3	どちらとも言えない	11	10.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	1	0.9%
	合計	108	



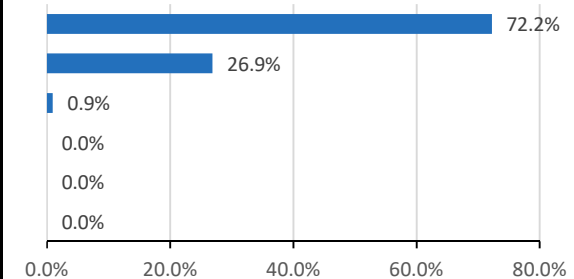
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	73	67.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	31	28.7%
3	どちらとも言えない	4	3.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



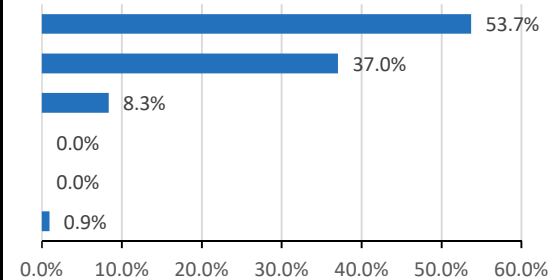
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	78	72.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	29	26.9%
3	どちらとも言えない	1	0.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



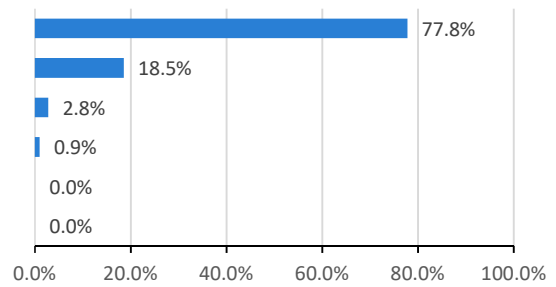
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	58	53.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	40	37.0%
3	どちらとも言えない	9	8.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	1	0.9%
	合計	108	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	84	77.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	20	18.5%
3	どちらとも言えない	3	2.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	0.9%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	108	



3. 2024 年度前期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業担当教員、FD・SD 推進委員会からのメッセージをお届けいたします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

キリスト教学 IIA	海老原 晴香	2024/金 2・3/前期
<p>【Q19 この授業をよりよくするためのアイデア】</p> <p>書画カメラを用い、配布資料に書き込む手もとをスクリーン投影する形式での板書が見づらい、というご意見をいただきました。教室内どの座席からも見やすい板書のあり方を検討します。ありがとうございました。</p>		
異文化とコミュニケーション	武田 加奈子	2024/火 2/前期
<p>【アンケート回答全体】</p> <p>みなさん、アンケートのご回答、そしてコメントをありがとうございました。</p> <p>この授業のやり方は、合う人合わない人がいると思うのですが、そこについてのご意見はなかったことで安心しました。そして、私が授業の目的としていたことはおおよそみなさんに伝わったようで嬉しいです。</p> <p>みなさんのアンケート回答を参考に、来年度からはもう少し宿題を増やします（！）</p>		
わらべうた研究	高橋 佳奈枝	2023/水 5/前期
<p>Q18 楽しんで参加して下さったことが分かりとてもうれしく思いました。</p> <p>仲間関係の中で育まれてきたわらべうたですので、皆さんが学年を超えて交流しながら、わらべうたの本当の意味は何かを体感できるものになったのではないかと思います。口承伝承であるわらべうたが、まだまだ「あそびうた」であると思われている中で、この講座が「赤ちゃんのため」のものではなく、ご自身も含めて「ひとの一生を育てる唄」であることに気づいて下さった学生が多いことが良かったです。</p> <p>次年度に向けまた楽しみながら学べる講義になるよう取り組んでいきます。</p> <p>Q20 受け身にならず能動的に社会に参加していくことの大切さが感じられたのだなと思いました。そしてそれは面白い力としてもあそびの中で経験できるので、子どものことを学ぶだけでなく、時には子どもから学ぶことも出来たのではないのでしょうか。この経験がご自身の生き方に何かの助けになると嬉しいです。 (次ページに続きます)</p>		

今年度も素敵な学生たちに出会えたことを感謝します。
 ほんの 15 回という講義になかで、皆さんにどれだけ手渡せるのだろうかと考えることもありますが、この口承伝承であるわらべうたが次世代につながっていくような種として皆さんの中で育つことを願いながら私も学びを深め、伝え続けていきたいと思えます。

論文講読基礎演習

佐藤 那美

2024/金 2/前期

【Q3「授業の難易度」について】は、ほとんどの方が、ちょうどよかったようで、次年度も同様のレベルを想定することができそう感じました。

【Q18「この授業のよかった点」について】は、論文の説明やフィードバック、統計的な解説などについて特によかったと感じてくださっているようで、進め方が適切であったことが感じられました。

【Q19「よりよくするためのアイデア」について】ですが、タームごとのレポート課題について、ご指摘がありました。要約したことのさらに要約という表現をされていましたが、どのような研究の意図や目的のもとに、どのような結論が導きだされるかを「全体の繋がり」をみながら要点を導き出すことが目的でもありますので、ブロックのようにつなぎ合わせる要約ではないというところを強調してお伝えする必要があったと感じました。次回には課題提示の仕方を工夫したいと思います。

また、そのほかのご意見についても、環境面については変更の余地はあり、進行速度についてや、どの程度全体で統一するかなどについては、お一人ひとりの理解度や、求める細かさが異なるので、変更が難しい部分もあるかもしれませんが、なるべく様子を見ながら進め方を柔軟にしていきたいと思いました。

全体的には、とてもまじめに受講して下さる方が多く、質問もたくさんしてくださったので、こちらも調べながらの回答でしたが、とても勉強になりました。ありがとうございました。

領域言葉	土橋 久美子	2024/金1/前期
<p>【Q19 の「紙パック 2 本消費はかなり厳しかった」という意見について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回授業で、製作に必要な材料については、いつ使うのか、どのように準備するのか知らせています。準備する期間は 1 ヶ月設けており、材料も限定ではなく、種類を変えても良いことは伝えています。準備ができない場合、事前に相談していただけたらこちらでも対応することができたと思います。 <p>【Q19 の「配布物が多い日のように、曲がったらダメなものなども前の週から言って貰えると良かったかなと思った」という意見について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で配布する材料については、前週に大きさを伝え、袋など持参するようにお話ししておりました。しっかり伝え切れていなかったかもしれません。今後、授業計画のプリントにも記述するよう、工夫しようと思います。 <p>【Q19 の「先生が 1 人テンション高く、生徒がついていけないので合わせていただければ」という意見について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、保育者の免許、資格を目指す授業となっています。保育者は、朝から元気に明るく子どもたちと接することが求められます。金曜日の 1 限の授業ということで、朝早くでエンジンがかからない方もおられたかと思いますが、教員として、保育者を育てるというねらいを意識し、日々の授業に取り組んでおりました。ご自身のペースで授業をお受けください。 		

② FD・SD 推進委員会からのメッセージ

「授業改善のための学生アンケート」は、本学の授業内容・方法などの改善を継続して行っていくために、2010 年度から継続して実施されています。

2024 年度前期も、アンケートに回答してくれた学生の皆さん、結果についてコメントを寄せてくださった教員の皆さん、そして実施にむけて様々な事務作業や調整を行ってくださった職員の皆さんなどのご協力のもと、実施することができました。ほんとうにありがとうございました。

授業を担当する教員は、アンケートの結果を受けて、次学期・次年度の各科目の構成や流れ、課題内容や頻度、分量等について、あらためて検討し直します。受講生の皆さんからの声は教員にとってたいへん貴重で、より充実した学習を提供するための大きなモチベーションとなっています。

2020 年度のコロナ禍によりオンライン実施に移行した後、アンケート回答率の向上と内容の改善を目指して、FD・SD 推進委員会において検討協議を重ねてきました。その結果、24 年度は人間総合学部で開講されている科目を中心にアンケートを実施することとなり、39.4%の回答率を得ました。

むろん、まだ多くの改善が求められるとは思いますが、いっぽうで、授業を履修したことに満足している学生の割合が 9 割を超えていること（アンケート設問 Q17）などに典型的なように、授業改善の成果と課題を示すことに本アンケートが一定の役割をはたしているとも考えています。

教員にとっても学生のみなさんにとっても、このアンケートがさらに充実した学習の実現に役立つよう、今後も内容改善を続けたいと思います。

「授業改善のための学生アンケート」2024 年度前期 顕彰授業について

2024 年 9 月 19 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2024・2025 年度は全科目区分を 2 分割して実施しています。2024 年度は、人間総合学部専門科目、宗教学科目、共通科目、学部共通科目、司書課程科目、司書教諭課程科目、大学院（児・発）専門科目が対象です。

2024 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2024 年度前期

少人数部門（履修者 6～19 名）

前期金曜日 4 限

「領域言葉」土橋 久美子 先生（人間総合学部初等教育学科准教授）

多人数部門（履修者 20 名以上）

前期火曜日 5 限

「アニメーション制作 A」やた みほ 先生（人間総合学部児童文化学科准教授）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 6 項目（項目毎の平均点の合計/30 点満点）とする。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰部門は、「少人数」（履修者数 6～19 名）と「多人数」（履修者数 20 名以上）の 2 部門とする。
- ⑥ 顕彰対象は各部門第 1 位の授業とし、白百合女子大学 FD・SD 推進委員会にて選考を行う。その後、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」 2024 年度前期 顕彰授業における工夫

2024 年度前期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 6 項目です。

- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

< 少人数部門（履修者 6～19 名） >

「領域言葉」 土橋 久美子先生（人間総合学部初等教育学科准教授）

2024 金 4 前期

・「領域言葉」について

幼児教育・保育を学ぶ学生が履修する授業です。絵本や紙芝居、パネルシアター、ペープサートなどの児童文化財の特徴や活用方法を学び、演習（保育実践）を通して、保育者の役割などについても理解を深めます。保育の中で子どもたちと楽しむ教材を自ら作り出していく、学生の主体性が求められる授業です。

・授業の内容について

保育者目指す学生を育てる使命を担っている授業だと思っています。授業の取り組み態度や言語表現教材の課題提出期限など、他の科目よりも学生にとって厳しく大変?!な授業だと思っています。学生一人ひとりがその厳しさ、大変さに向き合い、演習を通して達成感や満足感を得ることが出来るよう、学生との対話を常に持つことを意識していました。紙芝居を演じる演習では、良かったところや課題点など学生同士お互いに意見を交換し合いました。ペープサートや牛乳パックの人形制作では、友達と一緒に取り組むことで多くの刺激が生まれ、制作意欲につながったと感じています。この授業の集大成といえる「なんでも BOX 実践発表」では、一人ひとり自分の名前を紹介する「なんでも BOX」を作成し、グループに分かれ発表を行いました。

・教材について

教科書は授業の進行に合ったものを使用し、教科書内に書き込みをしながら独自のテキ

ストとするように提案しています。授業内で使用したパワーポイントや授業資料は、必要に応じて manaba course に掲示し、各自で復習できるようにしました。

・おわりに

学生の感想です。

「毎週出る課題は大変で、週に領域言葉の課題を考えない日は無かったけれど、それを上回る達成感やシンプルに意味のあることをしている感じがあって、課題がどれも楽しかったです」

「私は前に出て発表したり話したりすることが緊張してしまい苦手だったのですが、自分が自信を持って堂々で行うことで見ている人からも評価してもらえることを学んだので、これからの実習や発表は堂々で行うようにしていきたい」

「この授業で学んだことは、今後の実習やボランティアなどで十分に活かして、自分の将来のビジョンを明確にしていきたい」

「授業を受けて、子どもに楽しく理解して伝えるにはどうしたら良いのかについて考えることができた」

幼児教育・保育における「領域言葉」のねらいの一つは、「言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」です。この授業を通して、学生自身の言葉に対する感覚や表現する力がより一層磨かれることを期待しています。「想像、イメージする」これは、授業を進めるにあたって教員に必要なことだと思っています。これからも学生の取り組む姿を想像、イメージしながら、授業内容を検討し展開していきたいと思います。学生の授業への取り組み、主体性がこのような顕彰表彰につながり、心より感謝いたします。



< 多人数部門（履修者 20 名以上） >

「アニメーション制作 A」 やた みほ先生（人間総合学部児童文化学科准教授）

2024 火 5 前期

Q7:「アニメーション制作 A」は手描きのアニメーションを扱っています。「ぱらぱらマンガ」と言えばお分かりになると思いますが、少しずつ形に変化をつけて描くことでキャラクターが動いて見える仕組みです。まずは 2 枚の動く絵を描き、2 枚の動きからストーリーを組み立て、セリフや音楽をつけて 1 本の作品として完成させます。少ない枚数でも物語性のあるアニメーションができたということで、達成感と自信が得られたのではないかと思います。

Q9:「歩く」「走る」「鳥が飛ぶ」など、基本的な動きのコマ割りをプリントにし、作画のテ

クニックをつかんでもらってから、好きな動画を描いてもらいます。また、参考映像は作家性の高いアート作品を選んで上映しました。独特な絵のタッチだったり、音楽や声のつけ方に特徴があったり、テレビではあまり目にすることのない様々な手法の作品に触れることで表現の幅が広がったのではないかと考えています。

Q10:作った動画データを各自のスマートフォンやタブレットから私のパソコンに送ってもらい、授業の最後に上映をします。アプリの使い方やデータの送信方法については、教室をまわって分からない方のフォローをしていきました。

Q14、Q15:アニメーションの課題は、アプリを使ってタブレットで描いてもらうものと、紙に手描きしてもらうものとあります。デジタルでもアナログでも、普段から絵を描いている方が多かったので、楽しんでもらえたのではないかと思います。

Q16:アニメーションをデジタルで作るのは初めてという方が多かったです。すぐにアプリを使いこなし、最後の自由課題では、ミュージックビデオや二次創作的なものなど個性豊かな作品がそろいました。

学生さんたちが上達しているのを感じることができ、毎回作品を見るのが楽しみでした。

私は被写体を動かしてはカメラで撮影をする「ストップモーションアニメーション＝コマ撮りアニメ」を専門としています。昨年度は一年間、ドローイングのアニメスクールに通って動画の勉強をしました。私自身アニメーターとしてまだまだ力不足なので、この授業を通して自分のスキルアップも目指したいと考えています。

